

月影

平成十八年三月一日発行(十二号)

浄土宗西山禅林寺派

常林院

春のお彼岸の御案内

春の彼岸会法要

・日時 平成十八年三月二十一日(火) 祝日

午後一時 彼岸会法要 塔婆回向

午後二時 琴・尺八による日本の調べ

(曲目) 春の海、日本のわらべ歌

春麗、春の訪山 他

(演奏) 島田道雪、島田雅楽恭

午後三時 御詠歌

・場所 常林院本堂

※彼岸会法要で塔婆回向いたします。

ご先祖供養ご希望の方は、当日までにお申し込み下さい。



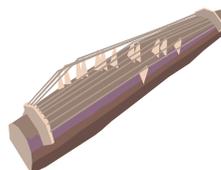
今回の春の彼岸会は、法要の後、一昨年お越しいただいた島田道雪先生、島田雅楽恭先生に尺八、琴の演奏をしていただきます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、お気軽にご参詣下さい。

彼岸会

お彼岸は日本独自の行事です。

今から千二百年も前の平安時代初期、桓武天皇が弟の早良親王の鎮魂・慰霊のために「春分・秋分の日を中日とした七日間、全国の国分寺・国分尼寺で読経・供養するように」との勅命を出されたのが彼岸会のおこりとされています。

春分の日・秋分の日には太陽が真西に沈みます。古来、太陽の没する方角は生命の帰着く先と信じられており、また、極楽浄土のある方角でもあることから、桓武天皇はこの時期に亡き御霊を供養することの大切さを感じたのかもしれない。



花まつり

四月八日はお釈迦様のお誕生日です。「花まつり」と呼ぶのは、お釈迦様が花の咲き誇るルンビニーの園で生まれたことに由来するものです。また、誕生のおり、右手で天上を、左手で大地を指差し「天上天下唯我独尊」（天にも地にも私たち一人一人の命はこの上なく尊い）と言ひ、その際、天空に竜が現れ水を降らし、お釈迦様を洗い清めたと伝えられています。こうした故事にちなんでお釈迦様の誕生の姿を模した稚児像に甘茶をかけ、あわせて子どもたちの健やかな成長を祈るようになりました。

当寺でも、四月八日、本堂前にお釈迦様の稚児像を置いておりますので、どうぞご参詣されて甘茶をおかけになって下さい。



あれこれ仏教用語

億劫（おっくう）

落語の「寿限無^{じゅげむ}」に出てくる長い名前の中に「五劫^{ごごう}の擦り切れ」という一節があります。「劫^{ごう}」とは、仏教で言う時間の単位です。縦・横・高さそれぞれ一六〇kmの大岩があり、ここに百年に一度だけ天人が空から降りてきて、衣で大岩の表面をなでていきます。これを繰り返して大岩が擦り切れなくなるまでの時間を一劫といひます。この劫を一億回続けた時間が「億劫」です。想像するだけでも気が遠くなり、考えるのが億劫になります。

平成二十三年四月二十五日（月）～五月一日（日）

宗祖法然上人八百回大遠忌

総本山永観堂禅林寺